

山行NO NO. 1744
日時 2017.07.08 (土)
山域 富士山・宝永山2352m峰
コース 洞門発7:14ー上塚・下塚コルー幕岩分岐ー宝永第三火口ー第二火口ー2352m峰10:
50ー第三火口上(昼食)11:15~12:11ー周遊道13:55
標高差 上り 洞門約1280m~宝永山2352m峰=約1072m峰(ただし長い)
下り 宝永山2352m峰~周遊道約1360m=約992m
参加者 後藤、峰田、加藤、長谷、星=5名

涼しい涼しい、富士の山

御殿場口洞門で合流。下山用として幕岩沢(仮称)下部の周遊道駐車場へK車をデポ。CL車は洞門に戻り身支度を整えて出発。足元は砂地を歩く為、暑いけれど我慢してスパッツを着用する。ただ、Kだけ忘れてきたので、片方をハンカチで、もう片方をタオルで足首を巻いて砂が入らないように工夫した。「困ったと思わず、どうしたら砂が靴に入らないようにしたら良いか」考え方が常に前向き姿勢のKであるが、やっぱり装備はキチンと準備をしたほうが良い。

直射日光を避け、尾根筋の樹林帯を登る。5分程歩いたらどうか、突然CLがKに「鍵は持ってきたか？」と振り向いた。「あっ！CLの車の中に置いてきた！」と声をあげ、CLの車の鍵を借り「全くこれだから油断も隙もあったもんじゃない」とぼやくCLの言葉を背中で受け止め猛ダッシュで取りに戻る。早く気がついてくれて良かった。これが、トラブル=1。忘れたままだと、ぼやきだけではすまない。ドンマイ！ドンマイ！春蟬がこの上なく煩く応援してくれた。



夏椿

途中に夏椿の花が一面落ちていた。余りに多いので、CLが「何故だろう」と首を傾げる。私が「夏椿は一日花。一晩で落ちる」という。CLは「嘘だろウ～」で賭けになった。結果は、後でHaがネット検索で一日花と分かった。CLは、ガックリ。



ハリスホーク

大石茶屋から幕岩への登山道を横切り真っすぐニツ塚の下塚を目指す。足元に砂地が多く目だつようになる頃樹林帯を抜け、振り子沢から上塚の二ツ塚分岐に到着。富士山はガスがかかって見えない。空気はヒンヤリ冷たい。登山道標識の上に2羽の鷹（正式名称＝ハリスホーク）がチョコンと乗っていた。最初、御殿場市が新たに作った模型と思った。CLが声をかけると持ち主の随分と無愛想なつっけんどん返事が返ってきた。まるで話かけられるのが迷惑だ・・・みたいな。会話が續かないので早々に立ち去る。人間馬鹿でもチョンでも、やっぱ愛想のいい方がいい。こんな広い空の下で飛ぶことも出来ず、鎖に繋がれたままの鷹も哀れに思えた。何故、山に鷹を連れて来るのか、理解に苦しんだ。



幕岩上から大きくトラバースして宝永第三火口に向かう。御殿庭入口から立木の背も低くなりいよいよ富士山の箱庭みたいな雰囲気になってきた。左下に御殿庭、道は砂地のザレ場が傾斜をつけて伸びている。此処でお昼にするというCLの言葉に、夏山訓練のため歩荷をしてきた4人の女性は、「それなら余分な荷物は置いていく」と此処にザックをデポ。「あと1時間くらいだよ」とCLは言うが、何て言たって砂地は歩きにくく、「かawaii女性」(??)の足では大変なのだ。



オンタデ



イワツメクサ



フジハタザオ

イワツメクサ、イタドリ、フジハタザオ、タイツリオオギ（花未開）、ミヤマオトコヨモギ（Kはオトコヤモメと覚えてしまい笑われた）が可憐に咲いている。御殿庭上まで砂地を一気に登り、其処から又樹林帯の中のえぐれた細い登山道の急登を額に汗し無言で登った。前方が開け右手に赤岩、正面に岸壁が見えた。宝永第二火口までもうすぐだ。足元は一步登っても半歩下がるゴロゴロ岩で歩きにくい。ここでH○さんの腿がつり悲鳴があがる。これがトラブル＝2。一步も無理だと待機する。其れから僅か15分で予定の2352m峰に到着。ガスの合間に頂上が見え隠れし、その下の火口が秀麗なカーブを描き素晴らしい景観だ。富士山はやっぱり見る山だ。歩みを止めると肌寒く、直ぐに下山開始。



2352m峰



下山



スイカ



昼食

帰りは早い。ズルズル下ってアッという間にザックをデポした御殿庭上着。Kが背負いあげたモロコシ、スイカに舌鼓をうち、CLが丹精込めて育てた胡瓜のぬか漬け、現場の塩がけ枝豆、玉子焼き。又皆が持ち寄っての豪華なランチタイム。う～ん。至福のひとつときだ。ノンアルコールが一際うまい！満腹状態で一服していると、先ほどの鷹連れ夫婦？がやってきて、又分岐の標識の上に鷹を乗せ、富士山をバックに写真をとりにまわっていた。



下山はニッ塚を回らず、一気に幕岩沢下の周遊道駐車場に下る。御殿庭下あたりでCLの右足の登山靴が大きく口を開いてパクパクし始めた。これがトラブル＝3。Mさんから手袋を貰い靴の先端にかぶせ、Haさんから靴の紐を貰ってきっちり縛る。応急処置はバッチリOK。塩梅がいいと快適に歩を飛ばす。

左の大きな涸沢に沿って樹林帯の中を下るが道は殆どない。途中、シロバナイチヤクソウを見た。既に咲き終わった山芍薬の大群にも出会い、「来年はこれを見に来よう」と話をしているうちにデポ車に到着。お胎内温泉で汗を流しサッパリとした所で帰路に着く。トラブルは三つあったが、まあまあ無事であった。この時期、富士の山は、涼しい涼しい快適なハイクでした。



シロバナイチヤクソウ



ヤマシャクヤク

